

# 「美術鑑賞」(その52)

2016年5月19日(木)~21日(土)

創立40周年特別企画

## 瀬戸内の美術館を訪ねて—高松・直島・倉敷

北野財団創立40周年を記念して行われた事業のひとつとして、美術館をめぐる研修会「美術鑑賞」が5月19日から21日の3日間にわたって行われました。高松、直島、倉敷で、合わせて6つの美術館と2つのエリアを訪れました。

- イサム・ノグチ庭園美術館
- 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
- ベネッセハウス ミュージアム
- 地中美術館
- 李禹煥美術館
- 大原美術館

- ◇ 家プロジェクト
- ◇ 倉敷美観地区



草間彌生「赤かぼちゃ」2006年 直島・宮浦港緑地

研修初日、四国は高松のイサム・ノグチ庭園美術館へ。20世紀を代表する彫刻家イサム・ノグチはおよそ20年の間、この地にアトリエを構えて制作に打ち込んだ。美術館は150点余りの彫刻作品と自ら選んで移築した展示蔵や住居、彫刻庭園が、ひとつの大きな「環境彫刻」の様をなしている。

続いて訪れたのは、猪熊弦一郎現代美術館。全国でも類をみない「駅前美術館」としても知られるが、画家猪熊弦一郎より寄贈をうけた2万点の作品をコレクションの核として展示している。かつての三越の包装紙を手掛けたのが猪熊であることを知る人は少ないのでは？

2日目は船で直島へわたる。国内外の現代美術愛好家から絶大な人気を集めているこの島には、ベネッセハウス ミュージアム、地中美術館、李禹煥美術館といった、見どころ満載の美術館があり、また、古い家屋を改修し空間そのものを作品化した「家プロジェクト」も直島

を語るうえで外せないスポットとなっている。開館時間に合わせて渡り、最終便までの1日を最大限に使い、分刻みのスケジュールで島内を回った。

最終日は倉敷大原美術館へ。美観地区も散策しながらの作品鑑賞。エルグレコ、モネ、マティスなどの優品を心行くまで堪能し、工芸館では民藝運動にかかわる作家たちの作品をも愉しんだ。

2泊3日、古代オリエント美術から、西洋美術、日本古美術、現代美術と日本のアートシーンを見尽くしたかのような研修となった。



宿泊ホテルから美しい瀬戸内海を一望できる



イサム・ノグチ庭園美術館にて



猪熊弦一郎現代美術館



ノグチが滞在した住居（イサム家）



歴史を感じさせる佇まいの大原美術館エントランス